

## 【活動内容】

### ・テーマ「おにぎり作り」3歳児クラス

日頃から親しみのある「おにぎり」を自分で握る事で、食への興味・関心を高める事を目標にこの活動を行った。絵本や給食のメニュー、会話を通して様々な具材がある事を知るうちに、「これ好き」「美味しそう」「これはどんな味かな？」という子供たちからの自然な疑問に答えながら、おにぎり作りに取り組んだ。

#### 活動スケジュール

1. 「どんなおにぎりがあるのか?」「どんなおにぎりの具材があるのか?」を絵本で学ぶ。
2. おにぎりの握り方を練習する。
3. クッキング (実践) ※使用絵本「おにぎりにはいりたいやつよっといで」

## ◆活動報告◆

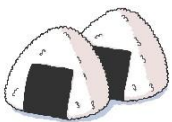
1. 絵本を通して、自分が好きな「おにぎり」について子供たちと一緒に考えた。  
家庭で食べているおにぎりや絵本の中に出てきた具材に興味を持ち、自分が好きな物、食べたい物を興奮気味に話す姿が見られた。また家族が好きなおにぎりについても話が広がり、お互いの話に耳を傾けていた。
2. 保育者が見本を見せながらおにぎりの握り方をみんなで練習する。  
「おべんとうばこのうた」を歌いながら、おにぎりを握る箇所を繰り返す。  
手を山の形にし、「ギュギュッ」と言いながら形作りのシュミレーションを行った。
3. おにぎり作りを行う。ラップの上にご飯を置き、各々握る。三角にする子や丸い形にする子等、様々であった。仕上げに海苔を巻く。ラップの中のご飯を海苔の上に乗せる工程ではラップが上手く剥がれず苦戦する様子も見られたが、保育者が補助を行いながら無事におにぎりを完成させる事が出来た。



#### 反省と振り返り

慣れ親しんだ食材という事もあり、絵本を読む段階から子ども達は興味津々な様子であった。おにぎりを握る際にもみんな意欲的で「ギュギュッ」と声をだしながら握る子もおり、自分だけのおにぎりを作る事が大変嬉しそうであった。

「早く食べたい!」「もう食べてもいい?」と完成を喜び、日頃のおやつ以上に食べ進みが良かった。今回の体験を通して、ますます食への興味を高め、様々な食材を口にするきっかけとなって欲しい。



## 【活動内容】

### ・テーマ「絵本給食」4・5歳児クラス

普段の絵本の読み聞かせの際に料理が出てくると「これは何て言うごはん？」「美味しそう、食べたい！」という声が聞かれた。その為、給食の先生と相談をし、調理をしてもらい食べる事とする。図書館へ行き、料理が出てくる絵本を探し、みんなで読む。その際に「お弁当を作りたい！」という声が上がった為、子ども達と話し合い、お弁当の中身やどのように詰めていくのかを一緒に考えた。

#### 活動スケジュール

1. 理想のお弁当を描いてみよう！
2. お弁当に冷たい具材を決めよう！
3. お弁当にどのように詰めるのか考えてみよう！
4. 実際にお弁当箱に詰めて食べよう！



#### ◆活動報告◆

##### 1. 理想のお弁当を描いてみよう！

自由画帳にクレヨンで自由に好きなお弁当の絵を描いてもらった。お弁当箱の色を何色にしようか、好きな食べ物は何か等、友達との会話を楽しみながら取り組んでいた。



##### 2. お弁当に冷たい具材を決めよう！



図書館で借りた絵本を見ながら、栄養士に作ってもらう具材決めを行う。

「唐揚げ好きだから入れたい」「これ美味しそう！」「ミニトマトはどう？」

「おにぎりはパンダにしたい！」等、様々な意見が出た為、決定には時間を要するかと思われたが、主食、主菜…と順調に決める事が出来た。

##### 3. お弁当にどのように詰めるのか考えよう！

お弁当の中身が決まり、その具材やお弁当箱の写真のコピーをコピーして、子ども達に制作としてお弁当を作ってもらった。自分達で決めた具材という事もあり、「唐揚げ美味しそう」「おにぎりはここに入れたいな」等、子ども達からは様々な声上がり、バランスを考えながら貼り進めた。「あれ!?全部入らない」と苦戦していた子も無事にお弁当が完成すると「出来たよ！」と嬉しそうな表情が見られた。



#### 4. 実際にお弁当に詰めて食べよう！



子ども達の希望の具材が揃うと目を輝かせて喜ぶ姿が見られた。制作で作ったお弁当図案を見ながら、お気に入りのお弁当箱に詰めていく。おにぎりにパンダの顔を付ける作業には特に集中して取り組んでいた。

少しずつ理想のお弁当が完成し始めると子ども達の表情に笑顔が溢れ、友達同士で見せ合う姿も見られた。



#### 反省と振り返り

絵本の読み聞かせをきっかけに始まった「絵本給食」であったが、子ども達が自分で考え、計画し、実践するという過程の中で様々な体験をする事が出来た。頭の中で考えている事を形にし実践する中で、スムーズにいかないことも多々あったが、友達に聞いてみたり保育者にアドバイスを求めながら、自分で何とかしようとする経験は今後の生活においてもきっと役立つに違いない。完成したお弁当を嬉しそうに食べる姿を見て、この計画を実行できた本当に良かったと感じた。子供たちにとっても、食への興味関心を高めるきっかけになることを願っている。

